合格体験記

飯野玲　（2022年度秋季講座受講　2023年度春季医療通訳技能検定試験1次試験1級合格 2次2級合格 2023年度秋季医療通訳技能検定 2次再受験 1級合格)

長い間英語を使用する仕事に携わってきた私が、新たな分野で人と関わる仕事に取り組んでみたいと思ったことが、今回医療通訳講座を受講するきっかけでした。また、自分自身病院通いが多く(幸い大事に至っていませんがMRIやCTなどが毎年必要です)、両親の病院通いに付き添うことも毎週のようにあったことから、医療、人体、病気について、深く学んでみたいと思ったことも、もう一つの理由でした。でも、やりたいと思ったものは、とりあえず手を出してしまう性格なので、勉強や試験、資格取得後のことはあまり気にせず、送って頂いたテキストを見てワクワクした気持ちで最初の授業に参加させて頂いたことを覚えています。

＜授業を受講して＞

“esophagus”- 初めての授業で、石坂先生が優しい声で発話されたこの単語を聞いた瞬間、「あれ、医療単語を覚えるのは難しいかもしれない」と焦りました（笑）これは毎週しっかりと覚えていかないとついていけないぞ、とその時に覚悟し、以後毎週、授業の後数日をかけて、テキストの紙を直接貼るのではなく、もう一度全て自分の(非常に汚い)字でまとめていきました。このノート２冊、および、「病気のあらまし」（こちらも別のノートにまとめました）の計３冊のノートは、講座の終了試験はもちろん、その後の医療通訳検定試験の２次試験1級合格への長い勉強の日々に大きく役立ちました。(後で述べます。）

毎回の授業では、受講生順にテキストを音読しながら先生の説明をお聞きし、後半ではその臓器に関する病気のロールプレイを行いました。見事に膨れ上がっていく、覚えなくてはならない単語の量に慄きながらも、何よりも毎回楽しくて待ち遠しい授業でした。先生は日々のご自身の生活で気づかれたことや、医療通訳の経験に基づくエピソードを、上手に交えてくださり、リラックスした雰囲気で私たちの興味とモチベーションを常に高めてくださいました。最終授業の日、「あぁ、この楽しい時間が終わってしまうんだ」ととても寂しく感じました。

＜検定試験１次＞

とはいえ、検定試験の１次試験はもう間近でしたので、余韻に浸り続ける時間はありませんでした。仕事や親の介護の合間にあくせくしながら授業のまとめノートを復習しました。これまでグループで勉強していた環境から突然、独りで戦わなければならなくなり、心細く感じましたが、この授業ノートと、先生の教えと楽しいお話、そして、今でも交流が続いている受講生仲間との思い出がしっかりと私を支えてくれました。1次試験対策としては、ひたすら授業ノートの英文を声に出して読み、単語をおさえていった後、では、過去問ではどう出題されるのか、またはどのような応用問題が出るのか、と出題傾向を確認しました。マニアックな問題は、確かにいくつかありましたが、授業で学んだ基本を徹底的に叩き込み、また、疑問が生じたときは、「？」という気持ちを放っておかずに、必ず本やウェブサイトで調べることを心がけました。当日は自信のない問題もありましたが、できる限り吐き出せた、という気持ちで試験会場を後にしました。

＜検定試験２次＞

筆記試験の結果はありがたくも１次合格でしたが、緊張しやすい自分にとっての難関は、やはり２次試験のロールプレイだと感じていたので、油断する余裕はなく、こちらも授業ノート、「病気のあらまし」のノート、授業で頂いたロールプレイ集、協会のロールプレイの過去問集を漫勉なく練習しました(したつもりでした！)。２次試験までの時間は少なく、とにかくがむしゃらに練習しましたが、やはり、焦りは裏目に出てしまい、当日は初めて聞く病名、患者さん役の方の非常に速い発話にノックアウトされ、「一体何の病気？早く終わって、、（涙）」という何とも受け身な通訳をし、試験部屋を肩を落として出ました。結果は２級、当然でもあるし、２級頂けただけでもラッキーだったかもしれません。ただ、自分は絶対に１級を取るつもりでいましたので、あと半年の準備時間を与えて頂いたと捉えて、自分の勉強に欠けていた部分や弱みをより詳細に分析する時間を持つことができました。ノートテイキングを徹底したことも２回目の挑戦までの半年間の大きな進歩でした。ノートテイキングはほとんどされずにリテンション力で通訳できる方々もおられると思いますが、私は自分の緊張をほどくためにも、徹底することを決意し、沢山のサインや絵を楽しんであれこれと開発し（笑）、このお陰でノートテイキングのスピードがはるかに伸びました。また、疑問点は１回目の試験で洗い出したはずだったのに、まだまだ理解が曖昧なことがあることを認識できたことも多く、時間が許す限り数々の病気の動画を観たり、とても興味持って勉強ができました。この際、まとめてきたノートに疑問点に対する調べた答えや、動画で新たに学んだことを記入でき、ノートにまとめて本当に良かったと実感しました。

一回目は必ず合格しようという気持ちが強く、自分の弱点を見極めないまま突っ走っていました。それは本当に傲慢で、二回目でやっと、実はこんなに伸びしろが大きかったんだ（笑）と気づきました。そして、一回目は余裕がなくなり、「合格」だけに気持ちが行っていたのが、何のための試験か、どういう通訳が患者さんと医療従事者の方々は求めているのか、ということも、考える時間を与えて頂いたと思っています。また、私にとって最も大切な対策は、焦らないことでした（＝気持ちが焦らなければ、全体像が必ず見えてきて、落ち着いて訳すことができる）。再受験の日、やはり待合室で「病気の通訳する前に、自分が病気で倒れるかも…」と思うくらいに緊張しましたが（笑）、それでも、「いや、やれることは全てやった。絶対に大丈夫。」と思える自信がやっと２回目にして持てたと思います。

試験（試験官の方々の発話が前回に比べて格段とゆっくりになったことには驚きつつも）は、自己紹介を言い終えたときに緊張も吹っ飛び、本当にその場の通訳を心から楽しむことができたと思います。最後に思ってもいなかったタイムオーバーとなった瞬間だけ、ガクっときましたが、それでも、それまでの発話はきっと評価して頂けるという、自分にしては驚くほどの手応えはありました。(とはいえ、試験発表までの間は、生きた心地はしませんでした。笑)

今まで様々な試験を受けてきましたが、大学受験以外にこれほど真剣になった試験は初めてで、1級合格がこれほど嬉しかったのも初めてでした。もちろん、試験はゴールではなく、自分の能力向上のきっかけであると理解しています。いつか、外国人患者さんが、「この通訳さんでよかった、安心できた」と思って頂けるようなそんな通訳士になっていきたいと思っています。

＜今思うこと＞

修了試験合格の際も、１級１次合格の際も、２次一回目1級不合格の際も、２次二回目の挑戦中も、１級を取得できた際も、お忙しいなか、石坂先生はいつも励ましをくださいました。個人的なお話をさせて頂くときは、とても楽しく、チャーミングでいらして、授業ではプロ通訳者として、また通訳士の指導者として、的確なアドバイスや、厳しさも含めて提供してくださり(決して怖い先生はでありません。笑)、あらゆる面で支えてくださり、刺激を頂いたと思います。試験が終わった今でも、あの授業を思い出すと、また受講したくなってしまいます。医療単語は日常ではあまり使わないので、忘れやすいものです。あれだけ口頭練習したフレーズも、病気や治療の説明ももう正直今すらすらと言える自信がありません。だから、今後もずっと勉強は続きます。

医療のテキストを開くと、いつも石坂先生の素敵な笑顔を笑い声が浮かびます。医療通訳という自分にとって新たな扉を開けたことで、石坂先生や受講生の方々と、そして体の神秘との貴重な出会いがあったことに、感謝しています。本当にありがとうございました。